



はまなか  
直樹



令和7年度予算編成方針について  
Q 「維持していくもの」と「見直すもの」は誰がどのように見定めるのか。

A 予算化されるまでに、所管課長、企画財政課長、副町長、町長それぞれの段階で見定める。

Q 令和5年度決算において、町民が行政サービスの向上を実感できる事業は何か。

A 町民グラウンド改修、道路舗装打換、保育施設安全対策、物価高騰対応、油田井戸改修、空き家対策、校内別室登校、学校修繕など。

Q 人にやさしいまちとはどのような町か。

A 第5次長期総合計画に掲げる各施策の目標が実現している町。

Q 事務事業評価方法をEBPMへ変更した理由は。

A 従来のSWOT分析の成果に疑問があり、予算要求時に、客観的データ(エビデンス)に基づき行い、限ら

れた予算を合理的に配分したいため。

Q 令和7年度予算編成においてEBPM的な手法は全面的に影響を及ぼしているか。

A 予算要求の中では少しずつ浸透してきているが、まだ新しい手法として着手したばかりであり、今後予算要求だけでなく、事業評価においても、EBPM的思考を職員に浸透させていきたい。

Q 持続可能な財政運営に必要なものは。

A 少子高齢化・人口減少の社会において、各種資源が限られた中で、いかに最少経費で最大の効果を生み出すことが肝要。



はまなか  
映慈



日の出町とイオンモール日の出との連携について

Q 今回の賃貸借契約の変更と期間延長は双方でどのような考えのもとに行われるのか。

A イオンモール日の出は、今や住民に欠かせない生活インフラとなっている。その認識の下、「イオンは移転・撤退してしまおうのではないか」という声が住民から起こってくるのではと推察している。イオンの土地賃貸借契約は、平成19年1月に20年間の事業用定期借地契約を締結し、さらに10年延長となる合意書も締結し、令和19年1月までの30年間の契約期間となっている。イオンからは本契約の期間満了まであと2年半程度となり長期的な運営計画等を進める上で、今回の契約変更の提案があり、イオンモール日の出の継続には異論のないため協議を進め

てきた。

Q イオンの経営状況等を、町は定期的に意見交換しているか。

A 不定期であるが、意見交換を年に数回行っている。損益状況等はグループ内でも良好な評価を得ている。

Q 八王子のイオンモール建設についてイオンモール日の出側から何か聞いているか。

A イオンモール日の出とは業態・形態が違うもので競合しないと聞いている。

町制施行50周年、合併70周年記念事業の取り組みについて

Q どのように機運を盛上げていくのか。

A 基本方針を定め事業展開を検討する。

